

磁気90年の技術進化と『変革』を恐れない経営戦略 ～フェライトの工業化、カセットテープ・HDDを経て スピントロニクス応用へ

講師：勝本 徹

元 ソニーグループ株式会社 執行役副社長兼 CTO、
ソニー・ユニバーシティ学長



2026年5月21日、信州大学工学部において、経営の真髄や技術動向について実践的な知見を伝えた。

1. 講義全体の趣旨・目的

本講義「経営者から学ぶ技術経営」は、社会が必要とするイノベーションを担い、21世紀の諸問題を解決できる理工系人材の育成を目的としています。専門知識にとどまらず、全体を俯瞰する視点やプロジェクトマネジメント能力を養うため、豊富なマネジメント経験を持つ「技術経営士の会」の講師陣が登壇し、経営の真髄や技術動向について実践的な知見を伝えることを趣旨としています。

2. 当日の出席状況

- ・日時：2026年5月21日（木）
- ・場所：信州大学工学部
- ・対象：工学部修士1年生を中心とした学生
- ・出席者数：登録者40名中、当日の出席者は約30名

3. 私の講義の概要

「磁気90年の技術進化と『変革』を恐れない経営戦略～フェライトの工業化、カセットテープ・HDDを経てスピントロニクス応用へ」と題し、90分間（講義80分、質疑応答10分）の講義を行いました。講義の冒頭で学生たちにTDKを知っているかどうか質問したところ、知っていたのは10人程度でした。そこで、社会人経験のない修士生への講義であることも踏まえ、業界用語や専門用語、TDKの社内用語などをできるだけ用いず、可能な限り分かりやすい説明となるよう心がけました。具体的な内容としては、TDKがフェライトの工業化から出発し、時代の変化に合わせてカセットテープ、HDD用薄膜磁気ヘッド、センサなどへ事業の核を変革させながら成長し続けてきた歴史を解説しました。その持続的成長の背景として、新しい領域に挑戦する「TDK Venture Spirit」、M&A先の企業文化も尊重する「多様性の尊重(TDK United)」、そして役職の上下に関わらず役割ベースでフラットに議論を行う「機能的対等」といった独自の企業文化の重要性について説明しました。

4. 学生たちの反応

教室では、学生たちが熱心に傾聴してくれ、質疑応答でも活発な質問が寄せられました。事後の課題レポートにおいても、講義の意図がしっかりと伝わっていることが確認できました。多くの学生が、技術力だけでなく「企業文化」が成長の基盤にあることをよく理解していました。自身のAI研究（アンサンブル学習）と結びつけて「多様性の尊重」の合理性を論じる学生や、他社の事例（東芝やホンダなど）と比較して、原点の技術を土台にしつつ長期的な研究投資を行う姿勢を評価する学生など、鋭い考察が見られました。特に、階層の壁を越えて意見を交わす「機能対等」という組織風土に対しては、多くの学生が感銘を受けた様子でした。

5. 謝辞および結び

末筆になりますが、本講義の担当教員である千田有一教授をはじめ、講義の実現にご尽力いただいた関係者の皆様に心より謝意を表します。私にとって初めての講義登壇となりましたが、熱意あふれる学生たちと直接意見を交わすことができ、私自身にとっても大変に有意義な経験となりました。